熱処理抽出法

材料･･･藍の生葉、新聞紙、ビーカー、ガラス棒、乳鉢、乳棒、ゴム手袋、エプロン、
ガラス棒、ザル(小)、温度計、水きりネット、ガーゼ、布４枚（5cm×5cm)、
M.F.T.C.（マルチ・ファイバー・テスト・クロス）

表８　布密度

	絹	毛	アセテート	ナイロン
(mg/㎤)	8.2	10.3	8.4	6.1

藍の生葉の重量･･･60g（煮出し用 50g、酵素用 10g）

熱処理する際の水量･･･200ml

浴比　　･･･1：100

準備

・布を適当な大きさに切り、水分を含ませて絞っておく。
・藍の葉を必要分摘んでおく。
・汚れない様に新聞紙をひいておく。
・エプロン、ゴム手袋を装着する。→インジゴは落ちにくいので注意

手順①

・水きりネットの中に、煮出し汁用の藍の葉を入れる。
・ビーカーを利用すると入れやすい。

手順②

・80±5℃の湯の中に、水切りネットに入れた藍の生葉を入れる。
・ガラス棒で葉をこするようにして、成分(indican)を抽出させる。
・熱いので注意する。

手順③

・液が40℃まで冷めたら、水きりネットを取り出し、絞る。

手順④

・酵素分の藍の生葉と少量の水をを乳鉢に入れ、乳棒で摩砕する。

手順⑤

・④をガーゼで漉しながら、③の煮出し液（40℃以下。温度が高いと酵素は死滅し、低すぎると活性化しない。）に入れる。ガーゼに残った汁は絞る。
・ガラス棒で液を混ぜる。
・染色液の完成。

手順⑥

・速やかに染色液の中に布を投入する。
・全ての布が液に漬かるように、ガラス棒で混ぜる。
・途中、布をひきあげて空気にさらすと、色濃くムラなく染まりやすい。
・染色液が青に変化していく。
・30分間染色させる。

手順⑦

・液から布を取り出し、１０分～30分程度空気乾燥させる。

手順⑧

・布を水洗する。こすらず、筆洗い。
・石鹸を用いると色が落ちやすい。

手順⑨

・布を空気乾燥させる。

手順⑩

・しわができているので、アイロンをかける。

完成

・布を使って、作品を作っても良い。